未来を拓く「学び」推進事業　授業者振り返りシート

授業日時/教科・単元　平成２４年１０月１３日　/ 現代文（３年生）

授業者　板谷大介　　　　　　　　　　　教材作成者　板谷大介

１．生徒の学習の評価（授業前後の変化）

　3名の生徒を取りあげて、同じ生徒の授業前と授業後の課題に対する解答がどのように変化したかを書いてください。実技教科等で生徒の解答が取れない場合は、活動の様子の変化について記してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 生徒 | 授業前 | 授業後 |
| １ | 太田が、周りの人に気をつかっているように見えて自分のことしか考えていないように見える。 | 客観的に太田を見ると、「なんて優柔不断で周りによく思われようとしている人なんだろう」と批判的な目で見てしまうが、自分が実際そのような状況に陥った時、私は自分が後悔しないと思える選択、他人を傷つけずにすむ選択をできるのだろうか。自分にはそんな自信はないし、多くの人が太田のような状況になると思った。太田を責めてきたけど、自分もそうなってしまうような気がしてきた。そう考えると、そうならないためには、一つ一つの行動をとるたびに自分がしたその行動が後にどのような影響を及ぼすかを考えなければいけないと感じた。そしてその瞬間瞬間に自分が今一番大切だと考えているものは何なのか、今の自分を支えているものは何なのかを意識して生きていけたらいいのかもしれない。そうすれば、もし何かを捨てなければならない決断にせまられた時に、自分が後悔しない決断ができるのではないかということを考えさせられた。 |
| ２ | 自分にとってそのときのいいことしか考えてない。エリスを日本に一緒に連れてくることはできなかったのかなー | 他の班の発表をきいていて、いろんな考え方を知ったけど、私は太田にあまりいい印象はもてない。エリスと出会ったはじめの方も天方に紹介されたばかりのときもきっとそんなに深く考えてなかったと思う。そしてエリスが妊娠したり、天方からの日本で一緒に仕事をしないかというオファーが来たあたりからやっと事の重大さに気がついた。でも自分の意思では何も決められず、結局人の言いなりになり、そしてその結果をすべて人のせいにしたりしている。これらの行動は太田が優しいためにその時の人のことを思ってやったからかもしれないし、自分がもしこの立場だったらと考えるとかなり苦しいが、自業自得だとも思う。だから、こうならないためにも、生きていく上ですごい困難な選択があるかもしれないが、自分の意思を持ち、考え、自ら決定を下すべきだったと思う。そうすれば後悔しても人のせいにせず、ある程度納得できると思う。私はお金がある程度ある人と結婚したいと思っていたけれど、これを読み、改めてちゃんとした愛情とか決断力とか意思がないとだめだと思った。 |
| ３ | 太田が身勝手であると感じた（エリスに自ら声をかけて見捨てた点、自分を守るためにさまざまな方向にうそをつき、ごまかしてきた点）。 | ・人生で必要なもの、人生を豊かにするものは別物であると感じた。太田は周囲の人間によって定められた世間的、表面的には立派な人生を送っていたが、それは豊かさ（本気の愛、熱く語ることのできる友情等）を欠いてしまっていた。・社会的地位や安定した生活等、基盤となるものの存在は必要であり、ここがゆらぐと全ての報告に影響が出かねない。だが、その一点を優先し、それだけに固執してしまっては良くない。人間のあたたかみ（愛、友情）に触れることも大切であり、その後の人生にプラスにはたらくものになるだろう。・愛情、友情といった目に見えず不安定なものは、双方の思いが存在していなくてはならない。もろいが、思いさえ途絶えなければ永遠に続くものである。これらが人生を豊かにし、素晴らしいものにしてくれる。 |

２．生徒の学習の評価（学習の様子）

　授業中の生徒の学習の様子はいかがでしたか。１で取り上げた生徒についてでも、他の生徒についてでも構いませんので、具体的に気がついたこと、気になったことを挙げてみてください。

昨年本校２年生で『こころ』を実施したときよりも、はるかに生徒達は活発であり、程度の差こそあれ、どの生徒もよく考え、意見を述べ、相手の話を聞き、対話を行い、すべての活動によく参加していたと感じます。『舞姫』は、雅文、文語文で書かれているため、一見とっつきにくいようですが、実は内容的には、『こころ』よりも生徒達には興味関心を持ちやすかった、あるいはとっつきやすかったのではないかとも思いました。

上記にもあるように、生徒はこの物語を自身への教訓めいたものとして捉えている部分もありますが、古典、優れたテキストを読解する際にそうした読みを行うことは間違っていない、むしろ正当であるとも考えます。古典や歴史などを学び、そうしたことによって人間の中に養われていく教養とは、生きる知恵を学び、よりよく生きていくための広い視野と深い洞察力を涵養するためのものであると確信するからです。

　研究協議のあと、どなたかからお話しいただいたように、最初はストーリーを追うだけだった生徒が、いつのまにか、主人公の目線で、もっといえば主人公になりきって思考を展開していたのが印象的です。

　いろいろな意味で生徒にとって貴重な経験になったことは間違いありません。

３．授業案の改善点

　実践後、生徒の学習の様子を踏まえて授業案の改善点を挙げてください（課題の設定、エキスパートの内容、ゴールの設定など授業のデザインに関わる部分を中心に検討してみてください）。

　生徒達はまだ若いので、もっと「たとえ刹那的でも燃えるような愛が美しいのだ」とか「いや、この世に友情に勝るものはない」だとか言うと思いましたが、みんな「まずは社会的地位が大事だ」といって意外と現実的なのでびっくりしました（と研究授業の次の時間に５組の生徒に言ったら爆笑していました）。

　ジグソー活動にて、Ａ太田とエリスの間にみられるような愛、Ｂ最後に太田が回帰していった社会的地位、Ｃ太田と相沢の間に見られるような友情、のどれかを必ず選ばなければならない、というのはちょっと暴力的かとも思い、Ｄその他、を加えておきましたが、これが幸いしたと思います。あるグループはＤを選択し「真実の愛」が本当に大事だ、としていました。そしてＡの太田とエリスの愛は本当の愛ではない、と断じていました。こういう議論は、作品の本質に触れる部分もあって、すごく良かったと思います。

　問いの発し方がどうであれ、生徒はよくテキストを読み込むことで、その文章に内在する作品の本質のようなものに触れ、それを感じ取っていくのだと感じました。

　実は去年実施した『こころ』の教材の改善点が今頃結構実感としてわかってきました。「お嬢さん」について学習した生徒は、人の言うことをきかず「お嬢さん」のことを語っていればすんでしまう、ということがほんとうに理解できたのが最近です（それでも多くの生徒は人の意見を聞き、つまり他者の存在に触れることで自分の思考、感性に変容をきたしていたともいまだに思えますが）。人間ってこのように、あることを理解するまでに時間がかかる、タイムラグがある、ということはよくある気がします。得にぼくは理解が遅いですが。いずれにせよ、これからじっくり、もっとよく『舞姫』にアプローチする方法はないか、今回の教材にどのような問題があったのか、考えていきたいです。

　『舞姫』『こころ』などの超一流のテクストに挑んでいくのは恐れ多いことではありますが、わたしはそれでも今後ともそうしたものにチャレンジしていきたいし（そしてそれは楽しい）、他の先生方にも、ぜひお恐れずさまざまな文章に果敢に挑んでほしいです

　以上まとまりませんが、現時点で振り返った結果です。よろしくお願いします。